新編水滸畫傳

五編 貳

875
42

門 へ 21
號 875
卷 42

神書佛書醫書國學
繪本 年中新古賣買
手遊いろく 浅草山岡
河内文アきりと
備後町三休橋西入
河内屋孫兵衛

新編水滸畫傳卷之四拾二

東武 高井蘭山 翁 譯編

明治三六年十月十日

○宋公明一回祝家莊を攻

神行太保戴宗錦豹子楊林の女人ハ楊雄石秀女人を延こ、
廳上ハ宋江ハ晁蓋宋江并に諸頭領ハ見えしめ各礼畢りて。
晁蓋先其所好を問るに。女豪傑仙を傾け隨ひすべきよりと。
しべ。張頭領皆悅び。楊雄又時遷が鶏を偷んで。捉れしこと
李逵女房まで書簡を送て。時遷を求ん。祝家の者共是を許
さず。剣へ一戦ハ及で。李逵と対すること。且祝氏兄弟梁山泊の豪傑と
傍羞辱ること一くくく告られば。晁蓋これを聞て大ハ怒いく。汝等
妄に梁山泊の名を偽て羞辱と蔑しめ。とぐ辱て恥んづべし。我

まづ汝あ人と殺さんとて。已に左右と呼び。武あ人が死と例よと命じ
る和に宋江忙しく宿めて云長兄先怒と息め。武あ人の豪傑千里
と遠しと茂して。山陣に来り。心と傾けて隨服せんと云にかしこさと
奉て見と殺しぬるに都て不可るうん。晁蓋が云梁山泊の豪傑王倫
と殺しとより以来。只忠義と以て主とし法の既に紀て織き志と記ず
各豪傑の志と磨て光彩あり。猶に武あ人梁山泊の名を借。鶏を
偷吸ひ我雀として和摩と篡しめられば我先武あ人と殺して號令
を正し。其後軍馬と起して。祝家莊と攻破り。快く武寛と喜びて宋江
狂徐て云長兄何ぞ人と一列ホ見ゆ。彼時迂ハ中せ織きたるに
よりて鶏と偷て事と惹出せり。武あ人ハ又忠義と重んぜる弦の英雄と
来うて。祝家莊の小人ホ山陣と排羞愧るとへいんぞ

武度に限んや。況や彼雀須日出るに。彼と厳密うして山陣に欲ずんと
出るよう。今山陣ハ人る多き由忽。云粮頗る乏し。先武勢ひホ来して
彼ホに攻行ば。暫時に崩崩して云粮多く得べし。来不久うとい数
人の豪傑と引て自ら祝家莊ホ弛向べし。若祝家莊とお孚げずんば
空て再び山陣に帰るまじ。見第一山陣の為ハ。他と敢て統率と祈
うべ。第二ハ彼亂雀ホに和摩らるとも免れ。第三ハ第千の云粮と
以て。山陣の用に供へ。第四ホハ李逵と愚と誘引して山陣に加ちしめん。
来忠義と以て。これと帰るに見刈ち金さ計ず。忠義ハ長兄の言
云ハいんぞ。時に呉軍師も。宋先兄の云ふ可し。今第楊雄石秀と殺
さば。自家の多忠と欠る左理と頼くハ晁長兄冥〳〵怒りと息て。あ
人が罪と免しぬへ〳〵ずるく既に紀て一月に猶められば晁蓋漸怒と

思び。衣人を免しゝ。宋江狂自ゝあ人と接論して云。衣人の賢才忍び
吳心と起しゝゆふとおゝれ。今晁長兄の怒りゆひしハ是山陳の号令之。
縱ひ宋江自ゝ過あなを防禁ふ於て既と別らゝべし。況や今新に狡面
孔目裴宣と立て軍政司とゝし賞罰の事究て嚴之。衣賢才
自ゝ是を察し。傍ゝゆふべゝ。揚雄石秀再拜して退さる処に。
晁蓋刑衣人のこを揚林が次ふ坐せゝめ。杯て酒宴と設け各觴を
收遂し。翌日又山上山下の諸既例聚義廳に集会し。祝家莊と攻
べき計を議定し。先晁蓋ハ山ふ留て吳学究。劉唐。阮小二。阮小五。阮
小七。呂方郭盛ふと俱ふ山陳をもる。宋江ハ諸既例と共に。祝家
莊に馳向ふ別勢と二手ふ分。二分ふ徒て是を発に。是一分ハ宋江。
花榮。李俊。穆弘。季達。揚雄。石秀。黃信。鵬。楊林ふ三子の歩

卒。共に三百の馬軍を率ゝて山を下る。第二分ハ林冲。秦明。戴
宗。張横。張順。馬麟。鄧飛。王英。自孫ふ三子の歩卒をゝゝびふ三百
の馬軍を分ゝ。先陳ふ二三里後れて山を下る。晁蓋ふこれを送て
関前を出られで。宋江ふハ遂ふ別れて走ちふ。祝家莊を目で発
ル。前軍ハ李逵獨龍山の前に至て陣を張る。宋江ハ時孫景と商議
して云ふ。我等祝家莊ハ路程遠ざ難あるとおれば率ふ云を知
ざゝ先衣人の指引するこを馳て。孫徑の曲折を探ゝ。後して
後に云を知べ。路の順逆を知。戰ひに役めるべ。是旋風李逵を出て
云。宋久ゝく人を殺ずして寂寞なる。宋江ハ云。汝ハ
暫ゝ是陣を破り歌を衛の時ハ。汝と用べし。今先衣人出て乃是
細作の為。汝と馳て何の用ゝ。李逵笑て云。遠ゝの小村一ツ

石秀山賤ふ
身とゆ
ゝ
祝家荘の
路をと

ぶ
彼〳〵に何ぞ必〳〵も長兄の力を用ひ〳〵んや。素自ら二三百の人数
を引て独向ふ。村中の男女勢て斬尽さんか。何の難きことあらで。彼ども
細雨を跳ぬるや。宋江責て云。汝何ぞ又乱りの云を云や。全て妄言なる
ことなん。即ち石秀を呼び云るは。汝は箇に祝家荘か行ねるとなれば
頗る孤往を記めん〳〵。楊林と共に独て勃靠とも探時て来〳〵んや。
石秀が云彼今親方の人るの多しを知て。必定人数を徒へて襲に来
べれば。我等武術をもて防ぐ。宜〳〵形を改め独行べ可き〳〵。楊林
が云我は道士の形に假こ行べきに。兄下は我が左右を離ずして。和尚ひ
ゆ石秀が云我蘇州に在〳〵時。薬を賣て。ようく武業を知りなれば。又一荷
の薬を担て独行べし。楊林が云已に然〳〵。今青天の時分に跳行ん
とて各身辺に力を蓄へ〳〵べ。宋江これを見て。心中

に抗びけり。扨石秀は一荷の薬を担て先を〳〵し。路径曲折ふ
して江方に樹木茂り。果して険阻なり。石秀旦薬を卸して
暫く歇るに。楊林も乃士の形に粧て。武辺に坐りぬ。石秀は右
をるふ者ひ人多りしが。晴に楊林を呼で法を云。武外東西径乱
雑りて。明白儀ざる。前日李逵ふ殺て武辺の法をるりしら。その帝は
日已に暮しが路径分明ふ見ざりし。楊林が云遊莫只大道を取
んで。跳行んふ何の差りめ〳〵んとて。然て前後に相従て思顧大道を擇
んで。をゝ多の郷ふ遊。對向に一村の人家あて数ふ不ふ酒店あるれば。石秀
は武郷ふ至て酒店の前に繋と卸し憩ひ居るに。酒店の内なる剣軾
と立並へ途中を往来せる者も。相て家甲を着し。胸の上に大なる祝
の字の話を附。各勇を奮ん気長わり。石秀をく前で一人の老翁ふ宮て

云るに此処いふる風俗なれば。毎人ふ衣甲を著すれば。老翁ぐ云汝を何国より来れる人ぞ。ふく云て禍ひを避よ。石秀ぐ云我ハ山東の者なるが冥賞に在て銭を失ひ四方。所々ふ問ること能ハず頃日此処ふ至て栄を貪ふ〳〵此所を何等の禍出来るぞ。老翁ぐ云汝すべ〳〵ふく〳〵速て身を他所に避くべし。此所ハ梁山泊の賊軍始る〳〵。石秀ぐ云かくのごとき静謐の村中に何ぞ賊軍あるぞ。老翁云此村の祝朔奉と云人今梁山泊の豪傑を歓さんとて人を遣し彼者大勢を引て村に上来ぬ。兵者ぐらくハ此処の路程究て曲折なるに依て。彼来ることを能ハず。賊軍始りなば殺ひの云ひ出さんとて。毎人衣甲を著せしめ。手用意調へり。石秀ぐ云此村中続て幾何の人ぞや。老翁ぐ云此祝家荘ハ凡そ一二万の人ぞ。又東西の村ハ数の云出べし。別ち東の村の所ハ人ハ撲天雕李応

ぞ。又西の村の所ハ人ハ扈太公と号して。一人の男子一人の女子とを持ひるる。此女子ぐ名ハ扈三娘と。人皆一丈青と称ス。常ふ武芸の遊人に。石秀ぐ云已ふ彼の如人ハ梁山泊より攻来ること何の恐れ老翁ぐ云。汝〳〵ごとき他国の人此地の所程を知ざる故ふ為果して。軍部〳〵ハ必定禍を免れぎして捉るべし。石秀ぐ云汝程と知ば、そ。捉るとハ。老翁ぐ云我此所の為に一首の詩あり。其詩ふ云

好個祝家荘　盡是盤陀路　容易入得来　只是出不去

石秀此詩を聞て。故ふ涙を洒て告て云るハ。我ハ吳人に流落て故ふ不幸なるに。此軍場に出会て。去らに捉られんことハ必定非命の死を致すべし。我ハ老翁に仁心を感ひ。脱れ出べき路を教へ。強ハ我此一命の栄を老翁ぐ云我何ぞ惜ん。老翁ぐ云

して汝が栄を交んや。汝宜しく酒食を求めざるべし。我に随て来るべし。我汝に酒食をあんとす。遂に引て家に回り。暫く酒食をすゝめて石秀に与へられたり。石秀再拝してこれを喫し。纔に又告て云るハ。伏願くハ老翁路径を指教へ給へ。老翁云汝村中に入て。大柳の樹ある傍せ見よ。一の路あり。是纔に大柳の樹をさされの孫ハ孤て孤孫と為す第一路を差ひなべ。左りに旋り右に盤るも刻る而已く死孫にして再び脱れ出んと欲るべし。対文死孫の肉を地上に本石を横へて。伏弩多られば。必定汝を疑て忽ち生捉べきと。汝自ら心を決て大柳の樹ある処せ行べし。必乃を差へて捉まるとも。石秀是を聞て深く謝し。又老翁が姓名を問られば老翁答て云。遠村の人ハ孤て祝氏多られた。唯我ハ獲姓鍾離にして系本代村に居住た。石秀が云。系天の引合せを為て。老翁に

教へ給ふの恩を。又多く酒食を為て。微に感激の涙を流す。徐径を教へ給ふの恩を。微に感激の涙を流すこと。深く是を謝し。忽ち面に強勢して。細作の者を捉へ来りしに。石秀大ひに怒りて。是を見るに。七八十人の軍卒を。揚林と云る所に郷て引来る。石秀これを見て。心中に思ふ者ハ孤く云老翁に云て云るハ。何故彼を絆るや。老翁が云。汝何ぞ孤人が云を問ざるや。彼を刑家に入れ細作の者と。石秀が云。彼家を問て孫に迷てこそ捉れつゝん。老翁が云。彼柳の樹ある孫を走て。一向大孫を跳て遂に死路の辺に走ひ伏弩に捉られし。孤れた彼者まさ強勇にして。七八人の軍士を斬伏しと。代孤に又彼を捉て縛るなり。彼ハ刑梁山泊の孤外弾豹子揚林と云者と。未だ縛らも罪なくして。又系面に若干の人来て。三友人自ら巡見に出ぬと。遂に石秀暫の隙間

よゝ見と呼ぶる小。年ハ二十餘節の槍を持せ後ろに七八人の力士。戦ふに跨て和縫ふ。中ゝ年かの大將金刀嚴小披掛て白ゐる小ゝ。て多に一筋の鎗を拔て威風凛ゝとして来ル。石秀ハ此大將を識ず。細しらぬも。許て老翁に問ゐハ。此年少の大ハ誰なるぞ。老翁が云ハ。官人い列祝明奉の第三男祝彪と云人ゐり。二兄弟の内ゝハ。此人の武勇列しを偽れゝり。列彪家莊の一丈青と婚礼の約定りぬ。石秀えを聞て。暗に心中に曉し。列ちゆれを告て云ゐハ。系今道を辱じて馳出へし。老翁云今日ゝや日も昏ゐて。義軍路り。分て必馳汝が命を害せらるゝ。石秀が云果しもかくのごとんハ。老翁弥憐をこれて。我が一命を救ひ給へ。老翁が云。汝今宵ハ先我が家小留つて明日の軍かゝんを馳出よ。石秀大小悦で謝しゐる。つ系ハ又六人騎るの士ゝて。毎門に觸て云。汝百姓ゝ今宵紅蛇を見て却ゐゝ。故てんを齊ふ。力を保せ梁山泊の徒を活捕ゐしゝ。友刃小遂て恩賞をゝ。しとゐゝ系ハ哭ゐ。石秀列老翁小向て云かく哭る人ハ誰なるぞ。老翁が云彼人ハ商地の捕盜官之。今宵約を定て。宋公明を捉んと欲ゐ。石秀見を聞て暗小沈吟しゐる。遂小火抱を点て。後堂の傍ゐる茅屋の内小入て歇ゐり。扨宋江ハ云を村ゐ小也して楊林石秀を待れゝ。暫て者作ゐゐ。又歐鵬を誘て。探聽ゐゐ。歐鵬ハ云に。細作を活捉しゝ。系又洛の招子を見て。急曲折ゐて。依勢めゝん摸様をもし四系めて源へ。馳回ゐぬ。宋江見を聞大小怒て云我後徑を窺知て後云を。をゝと思ひ。丈人の云を馳ゐて。却て欲ゐ

擒しこそ恨みなれ。今宵急に云を設け。村中ゝ斬て入。彼女人のこれを救めべし。只ゝ〻び。張順の好漢ハいん。時ゝ黒旋風をミかて云ふくハ。未一彪の云を引て。村中に攻入べし。宋江是を許容し。速号令を傳へ。張軍に用云を觸ふ。車調へしめ。列李逵楊雄ゝ云を分与へて先鋒とし。又李俊ゝ云を与へて後陣とし。穆弘を左ゝ彼へしめ。黄信を右ゝ彼へしめ。宋江ハ花榮。歐鵬ゝと共に。中軍に居し。旗を翻し。鼓を揮ひ。鼓を撞金を鳴し。一度に吐と喊の聲をあげて。忽ちに祝家莊ゝ攻来り。已に獨龍岡の上ゝ取りしゝ。日暮く暗ゝ成り。宋江自ら前軍を催促して。燈を点せ。列ゝ黒旋風李逵二ツの斧を双の手ゝ揮て。高先に躍ゝ逐ゝ莊前ゝ取て。代れを。ゝ吊橋を。ゝ拽起て。莊門の内ゝ。一焼の火もえさかり。李逵大に焦燥て。濠を越んとせ〻れに。

揚雄これを猜めて云李逵兄先扣へよ。莊門を関して火をも出さるハ。必狡詐の計なり。すべ〻く宋兄の命を待て。別に宜しく商議せん。李逵怒りに堪ずして。二ツの斧を揮ひ。濠に満て大声を上に罵り。ゝ云ふハ。祝太公老賊手く出て。雄を変せよ。黒旋風李逵先陣を承て。これを取れり。莊上ゝ人も手く。縛て。人る已にいさりしゝ。揚雄急に宋江を迎て云。揚ゝ莊上ゝ人も手く。縛て人る已にいさりしゝ。宋江が云先我徹んとて。自ら勒て莊上を歩ゝ忽ち思ひ出し云ふハ我已に張れり。九天玄女より授りし天書の上ゝ。敬に除んで。急暴すべ〻くとめしに。我一味に楊林石秀を救んと欲ひ。手く疾中に。云を起して欲地に涙入し。今莊上ゝ云の又へざる。計なふ疑ひなし。ゝ〻軍を退んとせ〻れに。

号令を下し給れば李逵又呼て云。兄貴何ぞ退け給はや。我先
歌陣に斬入んふ。官軍我ふ捉て殺むべしと終に云ふやし如に勢ち砲
の勢大に猛て。独龍岡の上に一子除の火抱一齊に轟れば門樓の上より
矢石雨のごとく飛せしかば。宋江三軍に下知し。田虎ら退んとせし如に後軍
に扣へる李綱が人馬。一度に呼て云るは。舊虎ハ早く塞て入るの程
来成ごとし。早くくハ伏勢あべし。宋江是を聞て益疑さ云を以方に走て虎
を尋ぬさせるに黒旋風李逵ハ牧二つの斧を揮て歌を唱ふ。是一
人の歌も亦うるかる如に又独竜崗の頂ふ再び砲の勢ハ下に起りれば。
宋江是を聞て大ふ驚れ為ふ三軍を集めて大虎の辺を固せる。此時歌
の伏勢一齊ふ併起り三軍むらくく若く呼しかば。宋江聞て云汝ふハ何
と苦むや。三軍答て云此如き盤陀虎うて。云顧弛行とく。又田の

の虎に盤りおろうて来ふをむと能に。宋江下知して炬火の光ある如と目尚
に弛行い必ず人家あべしとて已に軍るを免る

○一丈青單王綾虎を捉ふ

彩る如ふ官軍又呼て云るハ此辺の虎も亦くく本石を横へ虎口を塞げば。
一足も進ぐし宋江大ふ驚て云。我必ず此虎に於て討るべしといまだ
云も罷らざるに穆弘が豫の内より石秀来れり。宋江歓で
これを迎るに石秀ハ只一人刀を撫り。杏ふ宋江に告るの為よりて云るハ兄貴
少しも慌てなふと為れ。来已に路徑を知り。大柳の樹ある虎へ。是則
生虎なるに。只柳の樹を誌として。此虎を弛ゆへとして。官虎三軍ふ号令
を伝へしかば。宋江喜悦斜るに。忙ゆへ軍るを催促して遂に大柳
の樹ある虎を求めて弛るに。約莫六七里ふ至て歌勢益加りしかば。宋江

一丈青
王矮虎と
虜ふ
図

深く見て疑ひ刎石秀と呼び問るに。前面の敵勢益多さいいん。石秀が云歌の人馬へ紅燈を見て知らるべし。親方の云もはしく紅燈と為て攻引べし。已に正午と為る上は。歌大軍と云ども何を怒る比是んや。此時花榮は馬上に立て。もや紅燈を見着列ちこれを指ざして宋江小若るゝ。其兄彼紅燈を見ぬ人。我勢赤き物時は彼紅燈も。はく来に社。我勢西に引とさへ彼紅燈も又西ふ社。これのよく歌の相陽ふ疑ふ〜宋江が云已にかくめ〜べいうもして彼紅燈を追失ふ歌の計勿ち齟齬べし。花榮が云彼紅燈を無せんと。何の難さをめ〜んやとて。刎ちるを近く為て。其一箭に紅燈を射落〜るれば。歌勢果して其の弱を失ひ。自〜大ひふ淡乱に。これ於て宋江三軍を為て。攻引んとせ〜紅ふ。前面ふ又喊の聲天ふ響ひて。火把の光幾子と云数を知らざる。

宋江是ふ石秀と呼で云。汝ハ暗に前面の勢を探り来るべしとて。急〜引るふ。子逮跳回り報るハ。前面の軍勢ハ刎ち方の第二引の人馬。林冲。秦明ふ。已に歌の伏勢を追散して。今まこに村口ふ攻おんとす。宋江これを聞て三軍を令あ。左右より夾て村口ふ攻家莊の歌を。面八方に追拂ひ。彼〜林冲が勢と。一所に合せ陣を元し。部〜。天色漸く明ふ〜。親方の人数の内独り張三山黄信ばかりしぶ。宋江大ふ驚きこれを張軍に問るに。一人のふ城を出て云。黄信既ハ。城表高先んで働さなひし時芦葦の内より鈎索を投出して。黄信既を鈎倒し遂ふ大勢逃おて。黄信既を活捕ぬ。宋江これを呼て大ひに怒り。已ふかくのめんば。何ぞ為ふ来て若ざりしぞとて。従軍ふ殺さんとしられた。林冲花榮再ビこれを宥めしかば。宋江是を免

ろう。孫將軍て云ふは。まご祝家莊をおびやかしに。もや人の孫外を失て。何ぞこれを思んや。楊雄ぞ云。ぶ紀い初て三つの村めり。ふの村の李大皮人ハ。毎日祝虎に賄を射られ。今家に立て。もを養はぶ。宋老兄迷ふ詐て。彼と商議しぬぐ可ゑ〜んう。宋江ぞ云。我ぶにこれを忘れぬ。彼ハ年尚地の人なれば。能業内を知つゝん。我自〜彷て計を求んゑ。抹沖秦明ハ皆くな陳をちりゆゑて。礼物を調へ。楊雄石秀ふとちゆん。三百余騎を引て。遂に李家莊ふ到しぶ。李家莊が鼓うをつ。毎の吊橋を高く捲て。墻の内ふ人ゑ。厳密ふ備へ。もや金鼓を打鳴るぶ。時宋江を迎めて。ゆりゆい。我ハ是梁山泊の宋江。自〜来て李大皮人ふ見えんとを。彼よのゝふして。更ふ別ぶ。雄ぶ。雄ぶ。ぬふとなん。杜興樓ふ上てこれを見るに。果して楊雄石秀ふ宋江が左右ふ侍ひ立しぶ。杜興壮〜く樓より下。莊門を開き一艘の小船を濠の内ふ浮。宋江を迎へるに。宋江急にゐるをもり。杜興ふ對面せ。楊雄石秀近く来て云ゑ。代人ハ紛鬼臉児杜興と号し。向ふ来ふ人と引て。李大皮人ふ見えしめぬ。宋江ぞ云。我ゐに李大皮人ふ若そ。梁山泊の宋江。来て彷ふ〜を知しめ。人杜興是を聞て。再び船を回して内ふ入。李家に代ことを詳ふ告ゑふ。李家ぶ云。彼ハ是梁山泊ふ生係る人なるふ。我いんでられふ見えん。汝只我ふ指て云べきハ。李家ハ毎日第祇を篤て。まご妓ゑざるゆゑ。今日の相見叶ぶし。彼を招て堂面すべ〜と懇懃ふ言て。宋江ふ回しめよ。杜興命を承り再び船を漕り。宋江ふ見て云ゑハ主人李家毎三拝謝して云。代回来隙を乗に。親自出て迎へなるべき

の処に。来日矢疵と蒙りて。今以て救ふべき者と為しがたし。昨日の糸
云と朝廷へ。懇数に信使せりと述れば。宋江微笑して。我已に李
大官人の心意を知れり。我今祝家莊の軍に利を失て。きゝえんと欲
せる由。李大官人も亦祝家莊より仇を夾まれんことを恐れ。ひて相見
ゆるを。と云へり。杜興が云李家莊いんで。汝のごとく存云めゝんや。実に病
を称て坐を安うせ来れり。汝此の虎ちゝと云へり。多年離村に住して
汝辺の虚実能く知れり。祝家莊の東は李家莊西は扈家莊。汝三
村の間は系来死生の交を誓て。互に相救ふ約ありと云へり。今素が主人は
病気と云。汝小祝家莊に欲分方なれば。依て今援の軍は救
云を出さゝるべし。只扈家莊へ。必ず救云を出すべし。然は恐らく不足ぞ
といへり。彼女将一丈青扈三娘。拠て独あり。使て第夫不毒の勇あり。

者共は祝家莊を救んと思ひ。東を防ぐ者は。西を防ぐ。西の
村の救云親方の後陣を繋ふ。とめゝん。又祝家莊は前後二の莊門
あり。一つは独龍岡の後。一つは独龍岡の後。前門の攻めなり。
却て利を失ひぬべし。前後夾て攻めば。必ず勝利めゝん。前門の
辺の石ゐ。曲折して盤陀坂の方。一代石ゐ。踏入ぬべし。大ひなる禍めゝん。
只大柳の樹。路のくを擇べ。石秀が云。敵今尽く柳
の樹を砍うと。親方云已に記を失て。ものゝ。杜興が云。縦ひ柳の樹
を砍うとも。いんぞ能く根を穿えんや。白昼なれば柳の根を死とし。
夜恐なれば云を止め。恐くは。宋江を失て大小既が涙
く杜興小衝に別れて。林冲小衝に回り。拠て林冲小衝。李逵が遇ざる
を杜興が涙し。幸を祥小若るべし。李逵又ものゝ出て云。兄貴礼物と

送て活ひのびしに。彼他病して遇ざるこそ無礼なれ。我自〻三百の兵と
引て。李家莊を打破り李逵を拖来て去兄小物喝せめん。宋江が云汝
程知らざるかな。彼ハ京師名人なる西家。呂方郭盛と忍れて我小遇ざるとて。
李逵又笑ていはく。我思ふに李逵ハ忍も幼年の孩子なるゆへ故に我
等小遇ふとて怕るゝんとて。皆吐と笑ひけり。宋江諸頭領小對して云。
我彼去人の兄弟歃の誓となり。朝夕の存亡保ち難うゝん。汝諸賢弟
各力を尽して我と共に祝家莊を破り彼去人を救ふべし。諸頭領
一齊に応諾して云。兄の号令雖かめて違く者めゝんや。唯ちゝ
先陣を雅に命じ給ふべ。思旋風又云汝孩子小を
殺すに。我又先陣を弟ん。宋江が云汝ぢ先陣ハ小若あれば。武成ハ汝と
用ひ。我自〻先陣すべし。列馬麟鄧飛歐鵬。王英に張横と

左右に従ひ。武二陸ハ又戴宗秦明。楊雄石秀。李俊張横。張順。
白勝小に命じて。水路より乗まゝ。第三陣ハ林冲。花栄穆弘。李
逵小命じて。旱路より乗まゝ。已に配定りしに各飽まで食
して。衣甲を著し。旗皆名る小あるゝ祝家莊を指て発ち拠
宋江ハ高唐州の帥字の大旗を拖せ。続て百又十騎の軍と。子の
歩軍とを引て。已に独竜岡の前小しゝ。宋江を勒へて。彼祝
家莊を見るに。流水岡を繞て垂柳家を蔽ひ墻内ハ劍戟を立て
門前ハ刀槍を横へ。防ぎ厳守小怪物小。宋江見て云
中大小怒り。忽ち誓ひを投げて云ハく。我等祝家莊を攻破らんば。
永く梁山泊小帰じとて。誓く牙を咬で拉へる如に後陣の軍馬も
又尽く帰りぬ。宋江列第二陣の人るを付如小。遂に攻さ

自らハ又兵を引て独龍岡の後に続き出て後へを包みたるに。前て綱擒
跌躄を設けて防さえぎ厳整なり。宋江急に戦を獨しめんと欲し
たる処に。忽ち西の方に一彪の軍馬喊の声を揚て。親方の後陣に随
ひ攻来る宋江見てまでる麟。鄧飛等を留めて祝家荘の後口を撃
しめ巳ハ欧鵬。王矮虎等と共に兵を率て手を分ち直ちに山坂の下に出て
来る敵を相迎ふ此敵ハ則ち扈家荘の女将一丈青扈三娘也。其勢
約莫二五百も有らんと覚へて彼扈三娘一疋の白馬に打乗双の手
に双刀を揮て当先に馳来る宋江が兵扈家荘の女将万夫不当の
勇ありとハ知ざて此女がをさらん。誰か出て彼と戦んやと未だ云も
終らざるに王英ハ生好色の徒なれバ。女将と聞て心中に悦び。何とぞ
是を活捉りて己が妻にせんと欲し忽ちまるを飛し鎗を撚り。一

丈青に搦てかゝる。一丈青これを見てはじく双刀を揮て相迎へ。遂に鎗
を交へ戦ふ已に十餘合に及ぶ処に。王矮虎漸く疲れ鎗法殆ど乱れ。
只左に架右に満て敵しがたく見えたるに。一丈青二ツの刀を双に揮て
砍入しかバ。王英捲まじきとや思ひけん。馬を回して逃んとせし処を。扈
三娘急に右の刀を棄て。軽く猿臂を伸し。王英を腋の下に挟みまゝ
取て地上に投しかバ。彼の軍卒ども亮れ王英を捉へて忽ち手に手に
縛めけり。是を見て欧鵬大に怒り。王英を奪ひ復さで叶べきやとて。
刀を舞し一丈青に斬てかゝる。一丈青おしも怕れず呵々と笑ひ又
これを迎て相戦ひ。互に秘術を尽し。一往一来精神を揮ひしに。欧
鵬も又力衰へしかバ。鄧飛これを危く思ひ。鉄鎗を掄て。喊を叫んで。擁出
ぬ。祝家荘にハこれを見てけり。扈三娘がみつゝもあらんかと急に吊橋を

豹子頭林冲と虜ふる図

下して。祝龍自ら三百餘人を引て。齒先より斬て出れば。宋江が後より
麟双刀を揮てるを陸系小跑出し。直ちに祝龍を迎へてお戦ふ。鄧飛は
已に弓を彎く。搠出しうども宋江小張めんこを忍れ。又引回して出
宋江が左右小陸ひ。やうく戦を遠れ。扨宋江は鉄笛仙る麟が祝龍
小敵しがたく。摩雲金翅歐鵬は一丈まに猪ぐ紀鉢を見るく。仏中慌る
処小。一彪の軍る。敵の撲合より衝へしうば。宋江大小抜でこれをるにば
大抜は刎霹靂火秦明と。人亦来經亦来急性の勇士なれば沒や代
英俊を敵に活捉れしうば恰も奔雷のごくに吼て。被狼牙棒を揮ひ
仗ちる麟小習つて。直ちに祝龍を呼てあて薙る。拔れば祝龍も又る
麟を棄て素明とお戦ふ。る麟は又王英を棄ひ回うて。再び弓を引
て敵陣に突入しうば。一丈青遥にられを見て。歐鵬を棄る麟に斬る

うる麟又これを迎へ互に交刀を交へ武藝の秘術を尽くるに。
恰も凡の玉屑を瓢し。雲の獲義を撒にごとくなりる

○宋公明兩祝家莊を打

宋江はこれを見て只呆れる斗り。扨秦明は祝龍と縁を交へ戦ひ
赤ず八九合に及ざるに祝龍は元来が武藝の
師欒廷玉鉄槍を学し。矛を拠て跑出れば歐鵬又軍を
率てお迎へ。欒廷玉へ。矛を斜に拖り逃るに歐
鵬勢小乗じて追蒐しうば欒廷玉は鉄槍を振せて歐鵬を
ようて小打落しぬ。鄧飛是を見て。鉄槍を舞しるを躍せ欒廷玉
小掬て蒐る。時宋江は三軍に下知し。急に歐鵬を救はせ。再び弓に
矛しめり欒廷玉は鄧飛に目も掛ず。直に秦明小掬蒐て戦ひ已

に二十餘合ふまれたまぶ捕頭ふるさざりし処に欒廷玉詐て逃しうば。
秦明棍を舞ハして追来る。欒廷玉ハ荒草の内に逃へしふ。秦明伏勢
めるといふ〳〵して扣續てるを跑へし処に。欲の伏勢左右より索を
引て。秦明がるを纏ひ倒し。遂に秦明を活捉て一度ふ吐と待罰を
と仰りしふべ。鄧飛これを見て。大ふ怒り慌〳〵来て。秦明を救んとせ
に表辺より又鈎索を以て。鄧飛を引るより下に搭下し。ばてこれを邳
めるり。宋江ひ先来を見て大ふ驚るさ急ふるを回して逃しふべ。る麟
を又一丈青を棄て歐鵬とるに。宋江を保護して南の方ふ去る。
欒廷玉狼虎一丈青ふハ後に跡て赴来る。漸お近ひて宋江已に危ふ
うし処に。正南の方より一彪の豪傑。又百の人数を引ると飛せ跑来る
宋江見るに。見没遮掩穆弘ふ。又正東の方より三百餘人の勢ふて。

来ふ。とるに。病尉遲楊雄。拚命三郎石秀を大ひ〳〵て救ひ来る。
又東ふの方より一人の豪傑大吉祥ふ。祝家の一族一人も漏すまじ
と罵り来るハ見刹ち小李廣花榮ふ。代三弟の人る一齊ふ来りしハば。
宋江大ふ悅び喜び引回し勢勢齊〳〵攻戰ふ。祝朋孝ふ莊上ふハ。
武術を見て〳〵〳〵親方利めしふて。刹祝虎を殺めて。莊ひとちふ。
彼小彪君祝彪。一足の名るに来。一筋の出陰を持。自〳〵又百餘騎を
仰しく莊門の外ふ突て出。去軍已に孔離して。互に勇を奮ひ功を
爭て一足も引退ぞ。正面八方ふ跑て攻戰ふ。扨莊前ふハ李俊張横張
順ふ已に水を渡て攻〳〵ふ。莊上ふる逃る。孔策を射出しれば。
李俊ふ三人ハ虚〳〵牙を咬て扣へう。戴宗白勝ふ見對岸ふ立て。
喊の聲を仰るの〳〵。代時天色已に晚〳〵。宋江を一面ふ合せて。且

戦ひ旦暮る処に彼一丈青急ぎ来るを飛せて宋江を追来る。事間已に近づいて宋江やゆかんと云へる処に。東旋風李逵八十餘人を引て山坡の上より馳り下る。二つの斧を揮ひ狂ひ来りしが。一丈青再びるを回して。樹林の辺を廻んで馳し。直に。樹林の背後より十四隊の官軍後を並べて寒生る。高先ず一人の大将を。柄の槍を振り威風お貌弦豪傑に抜出て。勇進金く人を驚るし。宋江るを勒て大将をるに。李名天下隠れなき。東京八十万禁軍教頭。豹子頭林冲。此時林冲一丈青を白眼て。罵りるハ。汝賊女我對る。こは。梁山泊の接威を親さんるるれば。我今曲て汝を対るとて。槍を舞して棚出し。一丈青大ず怒り。斧を揮て。直に迎へ戦ひ来ること十合に。宋江るに林冲故意双の眼を開て透と云せられば。一丈青是を見て。速ちに砕入て。

林冲槍を揮て。斧を左右に防ぎ。拒て左のを伸して。一丈青を中に引提遂に軍率ず命じて。郷を引て宋江を始として。衆皆唱と喝采ふ。林冲忙しく宋江が弟ふ。遅糸の罪を謝しられば。宋江是を感じ。賢弟何の罪ありやと。又高張して云。今日ハ日も晩めるに。先軍を休ば可るべんと。林冲是を統して。遠李逵を迎て。法張飛と招き集め。兵勢を一に合せ。村に引入しべ。祝家莊の軍勢も同じく莊上に引入る。此時歌方方に討死しる。雲霧子と云数をらず。祝龍を取て。活捕し。張飛を四車に入宋江をも捉へ。共に東京に送るべしと。号りる。扨又宋江ハ大軍を村に引上て。陳を立別に人の張飛に命じて。一丈青を梁山泊に送り。父宋大公に。報け。宜しく。もるべきと云られば。孫人皆宋公られを要んと

丈を以て懇に一丈青を監押して武夜山陣に送る。又歐鵬と共に山陣に回して養生をぞさせける。宋江は絶夜背くして眼を合せず一向計を思案して曉に成りし処に。一人の探事の来て軍師呉学究に向三阮兄弟并に呂方。郭盛を従へ。又百の人馬を引て迎へ。共に帳中に入て。酒宴を具へ盃数遍巡りし処に。呉用先宋江に對して云。晁天領今已に報しられむ。宋江大に驚び。遂に陣外に出て出迎へ共に帳中に入て。酒宴を具へ盃数遍巡りし処に。呉用先宋江に對して云。晁天領今已に去兄の軍。利を失ひ。又愛の白日。刘唐又人の豪傑を使ひ出兵を仰べし。と命をうけ。ちかぢか近日の我ひ。その揚員外いん宋江に云。我の路途一云の長江に下ゆくとて行るハ。祝家莊の一族なり。ものゝ忍むべ莊つの前に二つの白旗を竪て其上に大文字に分明に鎮平水泊擒晁蓋踏破梁山捉宋江と書ぬ。我独て攻るし時ハ。その地利を知ざる故。

揚林黄信を失ひ。主後攻し時ハ。一丈青に王婆虎を活捉れ。欒廷玉が働小歐鵬を手傷れ。又索を以て秦明が馬を纏倒し。鄧飛もはじく活捕れぬ。已に力方利を失ひし処に。独奇ひに林教頭のかうて。一丈青を生捕り。我が云一點の勇武保ちぬ。弱ぶんバ。力方金の弦乳を折くべし。武後いうる計を用ひて欲を歩んや。弱我祝家莊を歩被て活捕れし。兄弟ホを救ひ出さずバ折くて投く自殺せん。何の面目あて再び晁天王に見えんや。呉用笑て云。武祝家莊武度自滅亡を。来奇ひ一つの仮機を以て。事且夕にあて祝家莊を破べし。宋江大小孫て云。軍師已にいうる良計あて。且夕の内ホこれを破りやあや。又手段機を以ひし。いうる来歴なるやらん。詳にこれを示しめ。近くそんで問れバ呉用が云。勝利ハいや日あるぬとそれで。

去兄まづ酒を酌てんと願ひ更に強して後我これを飲んとて自ら酒を持て勧めり。呉用果しなく何ホの事と云ふるや次巻を見て分解べし

新編水滸画傳卷之四拾弐畢